

学校名	MBAGALA Primary School	ID	T-3	WARD	MBAGALA	Municipality	TEMEKE
開催日	2001年8月21日			参加者	計 26名		
学校分割案に係る議題				施設維持管理活動に係る議題			
施設に係る議題				維持管理に係る具体的な問題			
<ul style="list-style-type: none"> ●本計画の供与教室は、既存教室と比べて綺麗で魅力的なため、「教育の質」を考えて多くの保護者が子供を入学させたがことは必至である。だからこそ、どのように生徒を分割するか、真剣に議論しなければならない。 ●保護者や周辺住民が計画の存在を知れば、より具体的な計画内容に関心を持つであろう。学校サイドとの情報共有が重要となる。 				<ul style="list-style-type: none"> ●これまで財政不足を理由に、いくつかの維持管理活動が失敗に終わっている。学費無償化により、学校が保護者から学費及び寄付金を募ることができなくなったことにより、財政難の状況は一層厳しくなった。 ●無償化実施前でも、活動のプライオリティは教室の過密解消のための「新校舎(教室)建設」に置かれており、積極的な維持管理活動は実施されていない。 ●維持管理に関する計画等は策定されていない。寄付金が廃止されたことに影響を受ける。 			
分割基準				組織・担当者			
<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の居住地で分割。新設校には予定地に近い側に居住する生徒が通う。問題はない。 ●1校の最大生徒数は1,500人、1教室当り生徒数は45人である。これに基づいて分割すべき。(但し、現時点で全校生徒数は約5,000人) ●本計画における施設計画が、1教室当り最大69人収容可能な設計とするのであれば、69人×18教室で1,242人が新設校に移るべき(但し、この発言は2部制による効率的な教室利用を考慮していない) ●クラス別に分けることが適切 				<ul style="list-style-type: none"> ●これまで学校の施設維持管理といえば、児童の両親のみが財政を負担してきたが、今後はコミュニティが貢献できる可能性も大いにある。コミュニティ及び県(Municipality)が協力して、何が出来るか今から考え始めるべきである。 ●施設の維持・修繕に関し、コミュニティの担う役割が今後期待される。(WEC) 			
分割時期				その他			
<ul style="list-style-type: none"> ●当校(Mbagala)で学校分割を行うのは、今回(本計画に伴う分割)で3回目となる。1回目がKiziyani、2回目がKiburugaである。 ●(本計画の施設供与時期が3月予定となっており、スクールイヤーが始まる1月には間に合わない旨を説明したところ)時期についても特に問題ない 				<ul style="list-style-type: none"> ●施設の持続的利用の重要性は十分理解しており、初等教育無償化に伴うシステムの変革期にあっても、「自分達の学校である」というオーナーシップは変わるべきではない。 ●初等教育無償化では、UPEと同時に保護者からの寄付金も廃止されることになったが、入学の条件等となって児童の就学阻害要因とならない限りは、寄付金を募ることは禁止されないと理解している。但し、周辺住民(コミュニティ)は無償化を大変喜んでいる。 ●保護者のみならずコミュニティからの寄付金も、義務化されない限り禁止されていないので、積極的に募るべきである。コミュニティと協力した学校運営の取り組みを行う。 ●現在、10名の保護者からの寄付金により、最も状況の悪い校舎の修繕活動が行われている。(金線負担のみ)但し、その他の校舎の老朽化も著しい。 ●県(Municipal Council)の政策として「教室増設より学校建設を重視」するようになり、今後は修繕のプライオリティが高まることが予想される。 			
その他							
<ul style="list-style-type: none"> ●7月に学費が廃止され、来年度から生徒数が急激に増加することが予想される。分割により新校舎をつくることは非常に重要である。 ●学校分割に際してのコメントを調査団側から提案した。 <ol style="list-style-type: none"> (1)新教室に生徒が過剰に集中しないよう配慮すること。分割された各校における「1教室当り生徒数」が同数となるよう配慮すること。 (2)施設供与直後に生徒が新教室を利用できるよう、分割案を前広に検討し、分割が首尾よく行われるよう準備を行うこと。 (3)Mbagalaは過去に2度の学校分割経験を有しているとのことであり、本計画において同様に学校分割を予定している他の2校(Ukongala校とTabata校)の関係者とも適宜意見交換を行い、また分割を既に実施しているイララ県のUguruni校の関係者からヒアリング等を行い、ノウハウの獲得を図ること。 							